

# 平成26年度 関西学生ヨット夏季選手権大会

大会期日 : 平成26年(2014年)8月15日(金)～平成26年(2014年)8月17日(日)  
 開催地 : 兵庫県西宮市 新西宮ヨットハーバー (〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜4-16-1)  
 共同主催 : 関西学生ヨット連盟、兵庫県セーリング連盟  
 協力 : 新西宮ヨットハーバー株式会社

## 帆走指示書

### 1. 規則

- 1.1 本大会は、『セーリング競技規則』に定義された規則が適用される。
- 1.2 『関西学生ヨット連盟規約』、『470学連申し合わせ事項』、『スナイプ級学連申し合わせ事項』、『艇体への大学名表示に関する学連申し合わせ事項』を適用する。
- 1.3 付則Dは適用しない。
- 1.4 規則40『個人用浮揚用具』を次のように変更する。  
『水上にいる間、衣類又は個人用装備を一時的に替えたり整えたりする場合を除き、競技者は個人用浮揚用具を着用しなければならない。ウェット・スーツとドライ・スーツは、個人用浮揚用具ではない。この項は規則第4章前文を変更している。』
- 1.5 規則60.1(b)に以下を追加する。  
『ただし、団体戦に登録している艇は、自チームの他艇から受けた損傷又は傷害に基づいて救済要求を行うことはできない。』
- 1.6 規則87に基づき、国際470級クラス規則を次のように変更する。
  - (a) 『マストの上部に浮力体を付けることを認める。』
  - (b) 『メイン・セールとスピナーカのセール番号が同一でなくても良い。』
  - (c) 『正規以外のセール番号の使用も認める。ただし、複数の艇で同一のセール番号を用いてはならない。』
- 1.7 規則87に基づき、国際スナイプ級クラス規則を次のように変更する。
  - (a) 『マストの上部に浮力体を付けることを認める。』
  - (b) 『正規以外のセール番号の使用も認める。ただし、複数の艇で同一のセール番号を用いてはならない。』
- 1.8 次の規則を追加する。  
『インシデントが同じチームの艇の間であり、接触がなかった場合、規則第2章の規則違反に対してのペナルティはないものとする。』
- 1.9 レース公示と帆走指示書が矛盾する場合、帆走指示書を優先する。

### 2. 競技者への通告

競技者への通告は、大会陸上本部に設置された公式掲示板に掲示する。

### 3. 帆走指示書の変更

帆走指示書の変更は、それが発効する当日の08:30までに掲示する。ただし、レース日程の変更は、発効する前日の18:00までに掲示する。

### 4. 陸上で発する信号

- 4.1 陸上で発する信号は、大会陸上本部前に掲揚する。
- 4.2 D旗が音響信号1声と共に掲揚された場合、『艇の出艇を許可する。予告信号はこの信号の60分以降に発する。』ことを意味する。艇は、指示5に示されたレースの行われる日にD旗が掲揚されていない間は、出艇してはならない。
- 4.3 指示5に示されたその日の最初のレースの予告信号予定時刻の60分前までにD旗が掲揚されない場合、その日のレースは時間の定めなく延期されている。

### 5. レース日程

- 5.1 レース日程とレース数  
予定されるレース日程とレース数は次のとおりとする。

日付	国際470級	国際スナイプ級
8月16日(土)	4レース	4レース
8月17日(日)	3レース	3レース
合計	7レース	7レース

- 5.2 8月16日(土)は、追加の1レースを行うことがある。
- 5.3 それぞれの日の最初の国際470級の予告信号の予定時刻は、8月16日(土)は10:00、8月17日(日)は09:30とし、国際スナイプ級はこれに続く。
- 5.4 1つのレース又は一連のレースが間もなく始まることを艇に注意を喚起するために、予告信号を発する最低5分以

前に、音響信号1声と共にオレンジ色のスタート・ライン旗を掲揚する。

- 5.5 8月17日(日)は12:30より後に予告信号を発しない。ただし、12:30以前に予告信号が発せられた国際470級のスタートがゼネラル・リコールとなった場合の新しいスタートの予告信号及びこれに続く国際スナイブ級の予告信号は発する。

## 6. クラス旗

クラス旗は次のとおりとする。

クラス	旗
国際470級	470旗
国際スナイブ級	スナイブ旗

## 7. レース・エリア

【添付図B】に、レース・エリアの位置を示す。

## 8. コース

- 8.1 【添付図C】の見取り図は、レグ間のおよその角度、通過するマークの順序、それぞれのマークをどちら側に見て通過するかを含むコースを示す。
- 8.2 予告信号以前に、レース委員会信号艇に最初のレグのおよそのコンパス方位を掲示する。

## 9. マーク

- 9.1 マーク1、2、3及び4は、オレンジ色の三角錐ブイとする。
- 9.2 指示11に規定する新しいマークは、赤色の円筒形ブイとする。
- 9.3 スタート・マークは、スターボードの端にあるレース委員会信号艇とポートの端にあるレース委員会艇とする。
- 9.4 フィニッシュ・マークは、スターボードの端に位置する青色旗を掲げたレース委員会艇とポートの端にあるオレンジ色の円筒形のマークとする。

## 10. スタート

- 10.1 スタート・ラインは、スタート・マーク上にオレンジ旗を掲揚しているポールの間とする。
- 10.2 予告信号が発せられていない艇は、他のレースのスタート手順の間、スタート・エリアを回避しなければならない。
- 10.3 スタート信号後4分より後にスタートする艇は、審問なしに『スタートしなかった(DNS)』と記録される。これは規則A4を変更している。
- 10.4 ゼネラル・リコールの際、艇に知らせるため、レース委員会信号艇以外のレース委員会艇にも第一代表旗を掲げる場合がある。ただし、当該レース委員会艇が行う第一代表旗の掲揚・降下については、規則レース信号『予告信号は降下の1分後に発する』の意味は持たないものとし、また音響信号は発しない。
- 10.5 規則30.3の『セール番号』は、『エントリー番号』と置き換える。

## 11. コースの次のレグの変更

コースの次のレグを変更するために、レース委員会は新しいマークを設置し、実行できれば直ぐに元のマークを除去する。その後の変更で新しいマークを置き換える場合、そのマークは元のマークで置き換える。

## 12. フィニッシュ

フィニッシュ・ラインは、フィニッシュ・マーク上に青色旗を掲揚しているポールと、ポートの端にあるフィニッシュ・マークのコース側の間とする。

## 13. ペナルティー

- 13.1 付則Pが適用される。ただし、付則P1の『セール番号』は、『エントリー番号』と置き換える。
- 13.2 規則44.1に基づきペナルティーを履行した艇は、抗議締切時刻内に陸上本部において『ペナルティー認識書』を完成させなければならない。

## 14. タイム・リミットと目標時間

- 14.1 タイム・リミットと目標時間は次のとおりとする。

クラス	タイム・リミット	マーク1のタイム・リミット	目標時間
国際470級	80分	25分	50分
国際スナイブ級	80分	25分	50分

- 14.2 マーク1のタイム・リミット内に1艇もマーク1を通過しなかった場合には、レースを中止する。目標時間とおとりとならなくても、救済の根拠とはならない。これは規則62.1(a)を変更している。
- 14.3 先頭艇がコースを帆走してフィニッシュした後20分以内にフィニッシュしない艇は、審問なしに『フィニッシュしなかった(DNF)』と記録される。この項は規則35、A4、A5を変更している。

## 15. 抗議と救済要求

- 15.1 抗議をしようとする艇は、その抗議がレース・エリアで関与したか又は目撃したインシデントに関わる場合、規則61.1(a)に加えて、そのレースにおいてフィニッシュした後に若しくはリタイア又はタイム・リミットとなった場合にはその後に、速やかにG旗を掲揚したレース委員会艇に口頭でその旨を申告しなければならない。ただし、プロテスト委員会がやむを得ないと判断した場合は、この限りでない。

- 15.2 抗議書は、陸上本部で入手できる。抗議及び救済又は審問の再開の要求は、適切な時間内に陸上本部に提出されなければならない。
- 15.3 それぞれのクラスに対して、抗議締切時刻は、その日の最終レースに最終艇がフィニッシュした後又はレース委員会が本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から60分とする。レース委員会又はプロテスト委員会によるレース・エリアで目撃したインシデント以外についての抗議は、その委員会が抗議の情報を受けた後60分以内に提出されなければならない。この項は規則61.3を変更している。
- 15.4 救済要求の提出期限は、抗議締切時刻以内又は当該インシデントから60分以内のどちらか遅い方とする。この項は規則62.2を変更している。
- 15.5 審問の当事者であるか又は証人として名前が挙げられている競技者に、審問のことを知らせるため、抗議締切時刻後30分以内に通告を掲示する。
- 15.6 レース委員会又はプロテスト委員会による抗議の通告を、規則61.1(b)に基づき伝えるために掲示する。
- 15.7 指示13.1に基づき、規則42違反に対するペナルティーを課せられた艇のリストは、抗議締切時刻前に掲示される。
- 15.8 指示4.2、10.2、17、18、19、20、21、22、規則77の違反は、艇による抗議の根拠とはならない。この項は規則60.1(a)を変更している。これらの違反に対するペナルティーは、プロテスト委員会が決めた場合には、失格より軽減することができる。
- 15.9 審問の再開の要求は、次の締切時刻内に提出されなければならない。
  - (1) 要求する当事者が最終日以外に判決を通告された場合には、翌日の抗議締切時刻内。
  - (2) 要求する当事者が最終日に判決を通告された場合には、通告後30分以内。この項は規則66を変更している。

## 16. 得点

- 16.1 個人戦の得点  
各クラスとも、実施された全てのレースの得点の合計とし、より得点の低い艇を上位とする。これは規則A2を変更している。
- 16.2 団体戦の得点
  - (1) 種目別の得点は、チームの3艇の実施された全てのレースの得点の合計とし、より得点の低いチームを上位とする。
  - (2) 総合の得点(両クラスに出場した大学チーム)は、種目別の得点(2チーム以上出場した大学は最も得点の低いチーム)の合計とし、より得点の低い大学を上位とする。
- 16.3 参加艇数は、そのクラスに登録(受付)を済ませた艇の数とする。
- 16.4 本大会の成立には、1レースを完了することを必要とする。
- 16.5 掲示されたレース又はシリーズの成績結果の中に誤りがあるとして訂正を要請する場合、艇は陸上本部に用意されている『得点照会要請書』に所定の事項を記入し要請しなければならない。

## 17. 安全規定

- 17.1 出艇申告と帰着申告
  - (1) 出艇申告  
当日のレースに出走しようとする艇は、最初のレースのスタート予告信号の80分前から、陸上本部に設置された『出艇・帰着申告書』の出艇確認欄に、ヘルムスマン自身がその都度自筆でサインをした後に出艇しなければならない。
  - (2) 帰着申告  
陸上に帰着した艇は、その都度速やかに、陸上本部に設置された『出艇・帰着申告書』の帰着確認欄に、ヘルムスマン自身がその都度自筆でサインをしなければならない。締切時間はその日のそれぞれのクラスにおいて、最終レースに最終艇がフィニッシュした後又はレース委員会が本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から45分とする。レース委員会は、正当な理由がある場合には、その時間を延長しなければならない。
- 17.2 芦屋海洋体育館から出艇する艇の出艇申告及び帰着申告については、指示17.1(1)(2)を以下に変更する。
  - (1) 出艇申告  
当日のレースに出走しようとする艇は、最初のレースのスタート予告信号の80分前から出艇するまでに、ヘルムスマン自身が出艇する旨を陸上本部に電話連絡をしなければならない。
  - (2) 帰着申告  
陸上に帰着した艇は、その都度速やかに、ヘルムスマン自身が帰着した旨を陸上本部に電話連絡をしなければならない。電話連絡の締切時間はその日のそれぞれのクラスにおいて、最終レースに最終艇がフィニッシュした後又はレース委員会が本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から45分とする。レース委員会は、正当な理由がある場合には、その時間を延長しなければならない。
- 17.3 レースからリタイアする艇は、できるだけ早くレース委員会に伝えなければならない。水上での通知が不可能で、陸上への帰着が必要な場合は、帰着後速やかにリタイアした旨を陸上本部に伝えなければならない。

- 17.4 指示17.1(1)(2)、17.2(1)(2)に違反した艇は、PTPと記録し、審問なしにこの違反が認められた日の全レースに+3の得点のペナルティーを課す。ただし、DNFより悪い得点が与えられることはない。またペナルティーが課せられるレースが成立しなかった場合はペナルティーは課さない。この項は規則63.1及びA5を変更している。
- 17.5 レース委員会は、危険な状態にあると判断した競技者又は艇を救助する。救助された場合、その艇はリタイアしなければならない。この場合のレース委員会の判断の誤りは、艇による救済要求の根拠とはならない。これは、規則60.1(b)を変更している。

## 18. 乗員の交代と装備の交換

- 18.1 乗員の交代は、レース委員会の事前承認なしでは許可されない。交代の要請は、最初の妥当な機会にレース委員会に行わなければならない。
- 18.2 損傷又は紛失した装備の交換は、レース委員会の承認なしでは許可されない。交換の要請は、最初の妥当な機会にレース委員会に行わなければならない。

## 19. 装備と計測のチェック

- 19.1 艇又は装備は、クラス規則、レース公示及び帆走指示書に従っていることを確認するため、いつでも検査されることがある。
- 19.2 水上で艇は、レース委員会イクイップメント・インスペクター又はメジャラーにより、検査のため直ちに指定したエリアに向かうことを指示されることがある。
- 19.3 帰着後、陸上において指定された艇は、速やかに計測場所に艇を持込まなければならない。

## 20. 運営艇

- 20.1 レース委員会艇には、白色旗を掲揚している。
- 20.2 プロテスト委員会艇は、赤字で『J』と記載した白色旗を掲揚している。

## 21. 支援艇・応援艇

- 21.1 支援艇・応援艇は、水上にいる間、大会本部で貸与する『識別旗』を目立つように掲揚しなければならない。
- 21.2 支援艇・応援艇は、艇及び運営艇を妨げてはならない。またレース中の艇に引き波の影響を与えてはならない。
- 21.3 監督、コーチその他の支援要員等、その艇の関係者の乗艇している支援艇・応援艇は、指示21.2に加えて、最初にスタートするクラスの準備信号の時刻から、すべての艇がフニッシュするか若しくはリタイアするか又はレース委員会が延期、ゼネラル・リコール若しくは中止の信号を発するまで、艇がレースをしているエリアの外側にいなければならない。
- 21.4 支援艇・応援艇は、レース委員会及びプロテスト委員会の無線通信を傍受してはならない。またレース艇の無線機・携帯電話の積み込みはクラス規則により禁止されている。
- 21.5 レース委員会艇に『数字旗8』が掲揚された場合、『支援艇・応援艇は、レースをしているエリアを含む全エリアにおいて、危険な状態にある艇を可能な限り速やかに救助しなければならない。』ことを意味する。この信号はレース中であっても発せられることがある。この場合、指示21.2、21.3及び21.4は適用しない。
- 21.6 レース委員会又はプロテスト委員会は、支援艇・応援艇の指示21.1、21.2、21.3、21.4及び21.5の違反を申し立て、その支援艇・応援艇の関与する艇を抗議することができる。プロテスト委員会は、審問においてその支援艇・応援艇が違反したと判定した場合、その支援艇・応援艇の関与する艇にペナルティーを課すことができる。これは規則64.1を変更している。違反を申し立てられた支援艇・応援艇の代表者は、プロテスト委員会から要請された場合、この指示に基づく審問に出席しなければならない。

## 22. ごみの処分

- 22.1 ごみは支援艇・応援艇に渡してもよい。
- 22.2 支援艇・応援艇のない艇は、ごみをレース委員会艇に渡してもよい。

## 23. 賞

- 23.1 個人戦は、各クラス第1位～第3位の艇に賞状を、また各クラス第1位の艇には賞品を与える。
- 23.2 団体戦は、種目別及び総合の第1位～第3位の大学チームに賞状を、また種目別及び総合の第1位の大学チームには賞品を与える。
- 23.3 各クラス各レースの1位の艇にトップ賞を与える。
- 23.4 オープン参加艇、オープン参加チーム又は招待艇は、16.1個人戦及び16.2団体戦の賞の対象としない。ただし、16.3のトップ賞は、オープン参加艇も賞の対象とする。
- 23.5 オープン参加艇の中で各クラス第1位の艇に賞品を与える。

## 24. 責任の否認

競技者は、完全に自己の責任でこのレガッタに参加する。規則4「レースすることの決定」参照。主催団体は、レガッタ前、レガッタ中又はレガッタ後と関連してこうむった物的損傷又は人身傷害若しくは死亡に対するいかなる責任も負わない。



【添付図 C】 コース見取り図

(コース) スタート → マーク 1 → マーク 2 → マーク 3 → マーク 1 → マーク 4 → フィニッシュ

